

2016年3月

第66号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

慰安婦問題再考

昨年12月28日日韓両政府は慰安婦問題に関する合意を発表した。第二次世界大戦終結から70年、日韓国交正常化50周年、この問題が本格的な外交問題化した1991年から24年経過したこの時点において突然の合意は国際社会でも大きな驚きをもって受け止められた。

合意内容は、①慰安婦問題の最終的かつ不可逆的解決の確認 ②慰安婦問題が軍の関与の下、多数の女性の名誉と尊厳を傷つけた問題であることの責任を日本政府が痛感し、安倍晋三首相が心からのおわびの気持ちを表明する ③元慰安婦を支援するため韓国政府が設立する財団に、日本政府が10億円程度の資金を一括拠出する ④両国政府は国連など国際社会で本問題について互いに非難、批判を控える ⑤ソウルの日本大使館前にある少女像について、韓国政府が関連団体と協議を通じて解決に努力する、というものだ。

これに対し、国内では世論も報道関係も痛みは伴うものの不毛の争いに終止符を打ち、未来志向のこの「和解」を概ね肯定的に受け止め、日韓双方に強行意見がある中での合意を評価する声が高かった。

一方海外の声として、川口マーン恵美氏(作家・ドイツ在住)はVoice3月号で『海外にいる日本人の立場から言わせてもらおうと、(海外では)極悪非道の日本軍に「性奴隷」として奉仕させられた20万人の少女や女性たちの多くは、虐待と拷問で生きて帰れなかった、日本軍は都合の悪い証拠を隠蔽し、以降、歴代の政権は慰安婦の存在自体を否定し続けた。このたび安倍政権がようやくそれを、軍の関与を含め初めて認め、そして謝罪し、10億円の慰謝料を支払うことになった』『たいていのドイツ人は今度こそ安倍首相も逃げきれず謝罪したと解釈した』と述べている。

この問題の発端は1988年7月31日吉田清治氏の「私の戦争犯罪朝鮮人強制連行」の発行にあり、その後1993年8月4日朝日新聞が、慰安所の設置などで「国の関与を示す資料」が発見されたと報道、その後も16回にわたって慰安婦報道を繰り返した。日本国民の「協力」「援護」によって問題が拡大した面があり事実確認不十分のまま、なぜ自国民を貶める行為に走ったのか疑問視せざるを得ない。

今年2月16日政府はジュネーブで開かれた国連の女子差別撤廃委員会で、政府代表の杉山審議官が、韓国済州島で強制連行したとする吉田清治の証言を「捏造」「完全想像の産物」と述べ、証言を繰り返し報道した朝日新聞が「誤りを認め謝罪した」「慰安婦20万人切には根拠がない」などと反論した。

国際社会では韓国の「性奴隷」とする訴えが深く浸透し、日本の尊厳と名誉回復のため、引続き事実関係を丁寧に説明し誤解を解く努力が求められている。



中国古典に学ぶ

自分の心に勝つ

世の中には自分の心を弱きに導くさまざまな誘惑がある。
こうした誘惑をはねのけるためには、まず自らの心に打ち勝たなければならない。

また、自分の進む道に横やりを入れてくるような者もいる。
こうした妨害をはねのけるためには、自らの心をコントロールしなければならない。

心を平静に保てれば、妨害者を退けることができる。

(前集 38)

我を張らない

利益や欲望を追求するのは、必ずしも悪いことではない。
それよりも悪いのは、我を張って他人の意見に耳を貸さないことである。

男女間の愛欲は、必ずしも修養の障害にはならない。
それよりも障害になるのは、詳しく知りもしないのに、知ったかぶりをする事である。

(前集 34)

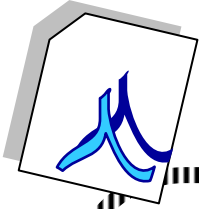
自分に厳しくしすぎない

学ぼうと思う人は、自らを厳しく律する必要があるが、一方では、物事にこだわらないさっぱりとした心持ちも必要だ。

あまりに自分に厳しくするばかりならば、心にゆとりがなくなり、まわりの人も息が詰まってしまう。

これでは、結果的に何もいいものは生まれない。

(前集 61)



アレクサンダー・グラハム・ベル (科学者・電話の発明)

- 1847年3月3日 スコットランドのエディンバラで大学教授の父アレクサンダー・メルヴィル・ベルと母イライザ・グレイスとの間に生まれる。幼少の期自宅で父から教育を受けた。
- 1862年 エディンバラのロイヤル・ハイスクールを4年で退学。
- 1863年 ロンドンに渡り祖父のもとで真剣な議論や学習に時間を費やし、ウエストンハウス学院で弁論術と音楽の教師となる。
- 1864年 エディンバラ大学に入学。科学に関心を寄せるようになり、特に音声や音声伝達に関して動物実験を繰り返すなど研究をするようになる。
- 1865年 ウエストンハウス学院の助手となり音響についての実験を続けた。
- 1873年 ボストン大学で発声生理学と弁論術の教授となる。その後音響に関する実験に専念することとなる。
- 1875年 電話に関する特許申請。1876年3月3日認可される。
- 1876年 フィラデルフィアの万国博覧会で電話を公開。
- 1877年 ベル電話会社創業。1886年アメリカで15万台電話が使用される。
- 1882年 アメリカ合衆国に帰化。アメリカ電気学会会長を務めたほかフランスレジオンドヌール勲章授与、多数の賞を授章した。音響・航空機・水中翼船・セレン光電池等に関して30の特許を取得したとされている。
- 1922年8月2日 糖尿病による合併症で自宅で亡くなった。享年75歳。

オススメの BOOK



『人類と地球の大問題』

作者 丹羽 宇一郎 PHP 新書

作者は元伊藤忠商事会長・中国大使などを歴任。中国大使時代は「尖閣問題」「反日デモ」などで大揺れの日中関係修復のため奔走した。

本書は世界の「気候変動」「水」「人口問題」「食料」「エネルギー・自然災害」などの実態と問題を解明し、危機的な問題に発展しつつある諸問題について、問題の共有と問題克服のための必要性を強く訴えている。

人間だけでなく生態系の生存、自然環境の激変がこの地球に何をもたらすのだろうか。「大変だ!!」の一言に尽きる。

加入者増える “がん” 保険



“がん”は1981（昭和56）年以來、日本人の死亡原因の第一位となり、死亡者数は毎年増加しています。がんにかかる人も増え続け、現在では日本人の2人に1人が一生のうちに“がん”と診断されると言われています。

そこで、がん保険について考えてみましょう。最近のがん保険は、がんによる入院や手術だけでなく、抗がん剤や放射線治療などさまざまな治療に対応したものが多く販売されています。保障の種類が多ければ多いほど良い保険だと思いがちですが、必ずしもそうとは限りません。確かに保障内容の数が増えれば保険金が払われる確率は上がりますが、その分保険料は高くなってしまいます。

がんで最も重要なのは、がんと診断されたら一時金を受け取れる「がん診断給付金」でしょう。この給付金は治療前にお金が入ります。先にまとまったお金が入れば、お金の心配をすることなく治療に専念でき、治療方法の選択肢も増えるはずですが、しかし、この保障は保険会社ごとに大きな違いがあるので注意が必要です。特に初期のがんと言われている「上皮内がん」については保険金の減額や、対象外となるケースもあるので事前に確認しましょう。

また、先進医療として認められた医療技術を受ける場合は高額な費用がかかります。代表的な治療法として、がん組織へピンポイントで照射する重粒子線治療（約310万円）や陽子線を使った粒子線治療（約260万円）などがあります。

<一般的ながん保険の特徴>

- 1 「がん」と診断されたら一時金が支払われる
がんと分かった早い段階で一時金が出るため希望によって健康保険の対象外となる先進医療や民間医療等の自由診療を受ける費用に充てられる。
- 2 「がん」に対する治療を重点的に保障
- 3 入院は何日でも安心
入院給付金の支払い限度日数は無制限が主流。長期入院や、入退院を繰り返しても安心です。
- 4 契約してから90日間の待機期間
契約後すぐに保障が開始されるわけではなく、契約してから90日経過後に保障が開始されます。この場合、契約後90日以内にがんと診断された場合には保険契約は無効となります。

☆がん診断給付金は1回限りの商品と、再発した場合でも一定期間が経っていれば再度支払われるなど、複数回もらえる商品があります。

☆入院給付金の支払いに制限がありません。

一般の医療保険では保障される入院日数に制限がありますが、がんの場合は長期の治療が予想されるため、入院給付金の支払い日数が定められていません。

☆がんに特化した保険のため、がん以外の病気やケガは保障の対象となりません。しかし、特約をつけることでカバーできるタイプもあります。

☆死亡リスクに備える保険ではないため、万が一に備えた死亡保障は別に加える必要があります。

☆一般の医療保険にはない「待機期間」があります。保障の開始日から90日間はがんに対する保障はされません。

がん保険は、がんを重点的に保障するため一般の医療保険と異なりメリット、デメリットがあります。保険会社によっても内容が異なりますので、自分に合ったがん保険を選びましょう。



酒田の「傘福」
日本三大さげものの1つ

【編集後記】

春の足音が大きくなってきている時に、鳥肌が立つような肌寒いニュースが飛び込んできた。

昨年11月から12月にかけて川崎市にある老人ホームで入居者3人が相次いで転落死した事件があった。

その後の調べで、その施設に勤務する介護士がベランダから老人を投げ落としたことが判明。

介護士の能力不足や感情のイライラなど背景にあるとの指摘もあるが「人命があまりにも軽い」「人心があまりにも荒んでいる」あまりにも哀しい出来事だ。